

千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

爽秋の候、皆さまお変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、少し前ですが、数年ぶりに大阪駅前に行く機会がありました。その変貌ぶりにびっくりしました。数年前は、大阪に住んでいた事もあり、駅周辺の地理は、ある程度は頭に入っていたのですが、全く分からなくなり、迷ってしまいました。大阪駅前の旧国鉄が持っていた広大な敷地の再開発が進み、新たなビルが何棟も建設されました。再開発のコンセプトは①駅から広がる街づくり②歩いて楽しい街づくり③新しい時代のまちづくりだそうです。

そうして出来たビルの一つが、グランフロント大阪です。その中にナレッジキャピタル・ナレッジサロンという交流サロンがあります。ビジネスパーソン、研究者、行政関係者やクリエイターや芸術家など様々な分野を超えた出会いと交流により、そこから新たな価値創造をめざす会員制サロンです。

弊社は、そのナレッジサロンの会員となりました。今後、ここを拠点として事業の拡大やお客様との交流に活用できればと考えております。

大阪駅前に来られる機会がありましたら、ぶらりと周遊されることをお勧めします。歩くだけでも楽しめる街に生まれ変わりました。



ご存知ですか？

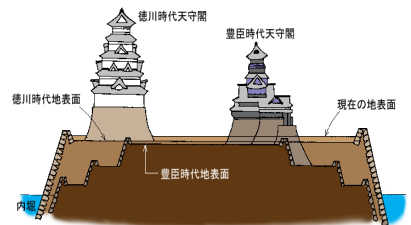
大坂さんのお城「大坂城」

大坂城は、摂津国東成郡大坂(現在の大阪市中央区大坂城の大阪城公園)にあった安土桃山時代から江戸時代の城です。別名は金城、あるいは錦城で、「大坂」が近代になり「大阪」と表記することが多いです。

この城は上町台地の北端に位置し、すぐ北側の台地には淀川の本流が流れる天然の要害で、この淀川を上ると京都に至ることから交通の要衝でもありました。戦国時代末期から安土桃山時代初期には石山本願寺がありました。一五八〇(天正八年)年、織田信長との石山合戦にて焼失。その跡地に豊臣秀吉が大坂城を築き、豊臣氏の居城及び豊臣政権の本拠地となりました。その後、大阪夏の陣で焼失し、徳川政権時代に再建され、幕府の近畿地方、西国支配の拠点となりました。現在の大坂城は昭和初期に復興された天守と幕末期の櫓や門などが現存し、城跡は国の特別史跡に指定されています。

大坂城の天守は現在までに三度造営されていますが、いずれも外観や位置などが異なります。その中でも豊臣氏の初代天守は金を目立たせた壮麗なもので、複合式望楼型五重層の地上六階地下二階の建物だったようです。その外観は、黒漆塗りの下見板張りで漆喰壁部分も暗灰色を用い、金具や瓦(金箔瓦)等に施された金を目立たせたと考えられています。一説には壁板に金の彫刻を施していたというものもあります。また、五階には黄金の茶室があったといわれています。

皆様も天下の名城の一つ「大坂城」を訪れてみてはいかがでしょうか。



暮らしの足し算

お肌ケアの基本は「正しい洗顔法」

スキンケアやメイクの技

術は日進月歩。どこの店頭にも

多種多様な化粧品が所狭

しと並んでいます。すべて

のお手入れの基本となるの

が「洗顔」と言われています。

正しい洗顔法によって肌

を綺麗にすることが、他のお

手入れや化粧品の効果を高

めることにつながります。

洗顔料や石鹸は、強くこすらずに

ても汚れや皮脂などをしっかり除去

し、肌を清潔に保つ力があります。で

すから、「ゴシゴシ」と強くこすりつけ

る必要はありません。

まずは手のひらで泡立て、濃い泡

を作ることが重要です。泡立てネッ

トを活用するのも良いでしょう。

その泡を、最初は額と鼻（Tゾー

ン）になじませま

す。次に頬、最後に

最も敏感な目元・

口元という順番

に、泡を乗せてい



強くこすらずに大丈夫!

へ。激しいマッサージは厳禁です。

洗い流す際も力を入れず、パシャ

パシャと水をかける感じで泡を落と

してください。泡が残らないよう、こ

れをくり返します。20回ぐらいが目

安です。なお、使用する水は、ぬるま

湯（32℃程度）が最適です。

タオルで拭く際も、静かに押し当

てる感じで、力を入れないよう注意。

そうして、なるべく時間をおかず

に、素早く化粧水で保湿すること

です。それによって、洗顔で開いた毛穴

がひきしまり、潤いを閉じ込めるこ

とができるのです。

大切なことは、
 どれだけたくさんしたことや
 偉大なことをしたかではなく、
 どれだけ心をこめてしたかです。

—— マザー・テレサ

女性が社会に進出し、男性と肩を並べてバリバリ働いている光景は今や全く珍しくない時代です。

高い能力を持ち、職場などで大きな責任を担い、形に残る輝かしい実績を重ねている女性は少なく

ないでしょう。仕事に限らず、ボランティアのよ

うな尊い活動に携わり、

高い志を持って生きてい

る人も大勢います。

それはとても素晴らしいことですが、一見単純

だったたり平凡だったたり思

える家事・子育ての中

にも、実は「その人にしかで

きないこと」があります。

人前で華々しい姿をみ

せる機会が少なくても、

精一杯努力したり、自分

心を込めて……



自らの使命を想い、一つ一つに心を込めて向かうこと。それこそが、世間に名をとどろかすような偉大な成果にも、日常生活の中の小さな進歩にも、共通している素敵な法則なのかもしれません。





「釜石の奇跡」をご存知ですか？

す。その3原則とは、①想定にとらわれるな。②最善を尽くせ、③率先避難者たれ——の三つです。

震災当日、津波警報が発令されると、市内の中学生たちは即座に避難を開始。いつも中学と合同訓練をしていた小学校の児童たちも、中学生の姿にならない、これに続きました。

①釜石市にはギネスに登録された世界一の大堤防があり、加えて、釜石の学校は安全な場所だと予測され、津波警報の避難地域に指定されていませんでした。それでも、子どもたちはそういった「想定」にとられず、大人からの指示を待つことなく、自発的に避難したのです。

②途中からは身体の不自由な同級生を背負い、低学年の児童や幼稚園児の手を引いて走りました。
③さらに、逃げようとしないう大人を説得し、避難するよう必死に頼みます。片田教授によると、「大丈夫

だ」と言ってなかなか動かない祖父にしつこくまとわりつき、最後は泣きじゃくり、やっとの想いで避難させた子どももいたと言っています。

「避難の3原則」は、緊急時のマニュアルながらも、自分一人が助ければよいという身勝手な原則ではなく、進んで弱者に手を貸すことも教えていました。結果的に、子どもたちだけでなく、多くの大人の命も守られたのです。

あの大地震を境に、多くの日本人の防災意識は劇的に変化しました。防災グッズを携帯したり、非常時の連絡方法や避難場所を決めたりと、いざというときの備えをしている人も多いでしょう。

そういったことに加え、どんな状況でも想定や初期情報を過信せず、「まず逃げる」という意識を持つことが大事なのかもしれません。さらに「他者にも手を差し伸べて

いく」といった根本的な意識改革も必要だと実感させられます。

釜石の子どもたちの成果が、とても珍しい「奇跡」として話題になるだけでなく、広く知られ、各地で実践されることが望まれます。

また、「先入観や想定にとらわれず、常にベストを尽くす」という信念は、人生においても大切な指針となりえますから、日ごろから心がけていたいと思います。



岩手県は、東日本大震災で大きな津波の被害を受けました。
しかし、同県の釜石市は、沿岸部にも関わらず、小中学生のほとんどが巨大津波から逃れることができ、九十九・八%という高い生存率を記録したのです。これが後に「釜石の奇跡」と言われるようになります。
同市では、震災以前から群馬大学の片田敏孝教授らによって、防災教育が徹底されてきました。震災の際、この防災教育で習った「避難の3原則」を忠実に守ったことで、この奇跡が起ったと言われています。

心得の教科書

電車やバス車内でのマナー

通勤や通学時、電車やバスの中で他人の行動に「不快になった」「イライラした」という経験はありませんか？

ヘッドフォンからの音漏れ・大声での会話や通話・割り込み乗車・座り方が悪い・車内で化粧をするというようなど、いわゆる「定番」とも言える不快なマナーの他に、最近の傾向としては、スマートフォンでの操作アクションが大げさ、という声も増えているようです。

そういう行動をとる側にしてみれば、周囲への配慮が欠けている・マナー意識が薄いといった他に、自分では気をつけているつもりが知らないうちに人に不快感を与えていた……ということもあるかもしれません。

嫌な思いをした

ら、自分も同じようなことをしてないか振り返ってみることが大事です。

一方で、「高校生が妊婦さんに席を譲っていた」「隣の人で落し物を一緒に探してくれた」など車内での心温まるエピソードも目にします。

良いマナーの連鎖が、快適な車内環境につながっていく——そう信じて、一人一人が自ら「思いやりある行動」を心がけていければと思います。



「うるさい」のは五月のハエ? それとも 八月の蚊?

次の言葉の正しい漢字を選んでください。

【1】 たばこ

- A. 煙葉 B. 煙巻 C. 煙草

【2】 かぼちゃ

- A. 東瓜 B. 南瓜 C. 西瓜

【3】 うるさい

- A. 五月蠅い B. 八月蚊い C. 暴走族い

【1】 たばこ→Cの「煙草」
他に「蓆」と書く場合もあります。

【2】 かぼちゃ→Bの「南瓜」
西瓜は「すいか」。東瓜と北瓜はありません。

【3】 うるさい→Aの「五月蠅い」
五月と言っても、旧暦の五月=今の七月にあたり
ます。昔は蠅が発生しても今のような防虫技術が
なかったため、とてもうるさかったようですね。